

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年一月度 入選句（投稿総数千八百五十六句・一般投句数五百八十五句）

特選

漁り火のちろちろ揺れて冬の月

岐阜市

湊口 順子

漁に出ている船の漁り火が「ちろちろ」揺れている。その光は細く弱く動いているのである。それだけでは何も意味がないのだが、季語「冬の月」がその漁り火と重ね合ってくる。月の光も海にあり、かすかに揺れ動いている。岸から見る作者の、敏感にまでもとらえた「かすかな光」は、心の中の光でもあろう。「ちろちろ」が生かされている佳句である。

新春や 神馬 嘶く 大社

養老郡養老町

田中 紫香

「明けましておめでとうございます。」今年は丁度午年です。神の乗り物としての「神馬」が「嘶く」ことを、読者のみなさんがどのようにとらえるかは、人それぞれですが、「神」のお言葉とも言えますね。きつと、平和で皆さんが健康な生活を送って欲しいと、午年の今年の幸せを祈って嘶いたのではないのでしょうか。そんな想いが伝わってくる句です。

嬰の頬皆がつつきて御慶かな

大垣市

名和 よちゑ

「嬰児」がいらつしやるご家族ですね。お正月に実家にも帰ってこられたのでしょうか。小さな子がいるだけで、家の中はパツと明るくなります。頬をつつかれた赤ちゃんも、きつとニコニコとして、手足をばたつかせて喜んでいることでしょう。赤ちゃんの頬をつついて「明けましておめでとう」なんて言っているお爺ちゃんやお祖母ちゃんの幸せそうな顔まで浮かんできます。幸せ一杯の家族が描かれています。

秀逸

ふる里は帯結ばれし父母の秋

不破郡垂井町

仙田 禎賢

枯薄 渴いた音が空を駆け

瑞穂市

村瀬 愛実

雪吊りの縄八方に揺ぎなし

大垣市

中山 あや子

冬帝の御機嫌よろし伊吹晴

大垣市

下村 常子

町師走 値札の上に貼る値札

大垣市

永井 田鶴子

六花心の傷を溶かすとき

養老郡養老町

西脇 貴那

走り根に漲る力 初詣

安八郡神戸町

高橋 泰

ワイパーの速さの合わぬ冬の雨

大垣市

後藤 洋子

悠久の塔の相輪 初日待つ

養老郡養老町

田中 秀子

読みかけのページに栞 去年今年

大垣市

岡田 あや子

入選

晩学につまづいていいる夜寒し
 石蹴りの印を消して片時雨
 やはらかな日輪ひろひ冬雀
 廻廊の板目瘦せたる寒の入り
 竹爆せて天に火柱大どんど
 十二月八日ゼロの映画の生きる意味
 旧知みな賀状の束の中に老ゆ
 風花や空を着飾る薄化粧
 蒼天に大地の笑窪福寿草
 冬茜余韻は山の背中から
 不破郡垂井町 藤塚 淑女
 大垣市 鶴田 信子
 安人郡輪之内町 野村 照子
 大垣市 白井 秀子
 三重県四日市市 平野 透
 岐阜市 伊藤 明美
 大垣市 川瀬 幸子
 大垣市 小林 真帆
 岐阜市 堀江 美州
 岐阜市 後藤 衣錦

入選

冬温し父に供花の帰り道
 あれこれと摘まむおせちや母の味
 冴ゆる風満天の星止めけり
 師も友もホ句も縁や初句会
 初詣 投げける賽銭音清し
 着膨れといふ幸せの中にある
 初諷経父の写真に語りけり
 鐘聴きつ想いを馳せる去年今年
 狛犬の阿叫に触れて初詣で
 薄氷割つてすつきり登校す
 岐阜市 富永 万里
 大垣市 菅谷 きみ
 大垣市 谷 彩虹
 福井県福井市 三ツ山 ひろし
 大垣市 浅野 亨
 福井県福井市 三ツ山 しげ子
 大垣市 傍島 隆
 大垣市 木村 一句
 不破郡垂井町 久保田 紘義
 大垣市 森 茂寿

選者吟

閉ぢ込めし想い放さぬ薄氷

永山